

## コンプレックスノート

こんにちは、しょうです。

ここでは、

8年間いた公務員からビジネスの世界に移行した経緯。  
そして、それに至るまで、コンプレックスを抱いていたことを  
話をしていきたいと思います。

では、始めます。

僕は、26歳の時にビジネスの世界に入りました。

高校卒業してからずっと公務員の世界で生きてきたので  
ビジネスの世界のことなんて全然分かりませんでした。

それでも、1年以内に50万円以上は稼げるよう  
になりましたし、前職よりも収入は上がりました。

で、なぜ安定している公務員を辞めていきなりビジネスの世界に入ったのか聞かれるのですが、

その主な理由として、2つ。

- ・コンプレックスを抱えていたから
- ・自分の力を試してみたかったから

まずは、コンプレックスについて話していきます。

僕は、1996年の冬に山形県に生まれて、山形県天童市の田舎で育ちました。

ここは、  
盆地ということもあり、  
夏はめっちゃ暑いし、  
冬は馬鹿みたいに雪が降ります。

もちろん、周りには田んぼや畑が広がっています。

で、家庭は僕が高校まで祖父、祖母、父、母、兄、妹の7人で暮らしており、共働きもあって貧乏ではありませんでした。

逆に、裕福でもありません。

普通に温かいご飯を食べられて、  
風呂に入れて、  
屋根のある家で寝れます。

でも、ケチだったのです。

なので、幼少期は外食や旅行はしませんし、  
ゲームやおもちゃなども買ってくれませんし、  
サンタさんも1回も来てくれたことはありません。

その他にも

- ・シャワーは一切使わず湯船で身体を洗う
- ・水道は使わないようにスーパーの  
無料の水を貯めてそれで使う
- ・電気代を無駄にしないように午後8時には就寝
- ・服や靴はお下がりか、貰い物

とそんな感じでした。

だから、友達が外食に行ったり、  
新しいゲームやおもちゃを買ってくれたり、  
クリスマスでプレゼントをもらった話を聞くと

「なんで、こいつらばかりいい思いをしているんだ」

って、ムカついていました

そして、

祖父には、「他人よりも上にいけ、絶対に負けてはいけない」と厳しく教育されていたので、周りを敵だと思っていたし、

祖母と母には、仲が悪いのでお互いから散々愚痴を言われて  
どんどんネガティブな性格になっていくし、

父は、自分の趣味に没頭して僕たちには無関心だし

そんな家族でした。

それもあって、性格が暗かったです。

全員が自分のことを悪口を言うてくる敵と思っていたし、  
自分は特別と思ってプライドも高いし、  
そもそも、ゲームやおもちゃがないので  
話についていけません。

祖父の教育で勉強はしていましたが、  
理解度が低いので成績も平均ぐらい。

ただ、幸運にも足の早さだけは早かったので、  
コミュニケーションが無くても人が寄ってきました。

小学生だと足が速いだけで、人気者になれます。

しかし、中学生になると  
人気者が足の速い奴から面白い奴に変わります。

僕は、口数が少なく、主張もしない性格だったので、  
こいつ面白くねー  
ということで人が徐々に離れていきました。

さらに、  
こいつは何をしても反抗してこないから大丈夫  
と思われてイジメの対象でした。

- ・授業中に後ろから消しゴムのカスを延々に投げられたり
- ・グループを作るときに必ずあまったり
- ・話掛けても無視されたり

でも、心の中では

くそくそくそ、ぜってーこいつらには負けたくない

って感じだとにかくプライドが高ったので、  
そんなことばかり思っていました。

しかし、運動でも勉強でも、勝てませんでした。

それでも、性格がこじれていたのもので、

「あいつらはきっとズルをしているに違いない」

「セコいやつらだ」

「俺が本気を出せば、あいつらよりは上だ」

なんてことを思って、精一杯自分を肯定していたのです。

しかし、いじめてくる奴に限って

家族と仲が良くて、

家族旅行によく行ったり

プレゼントをもらったり

携帯電話を買ってくれていたのです。

さらに、授業参観で見に来る親も、

カッコいい父親でキレイな母親。

自分が欲しいものをもっていました。

それが悔しかったんですね。

だから、本当は羨ましいのに素直になれなくて、  
自分を否定したくないから

「俺は特別な人間だから、こいつらと違う」

「こいつらは甘えている」

「なんで、みんな俺のスゴさを分からないんだろう」

「やはり、全員バカだな」

と自分に言い聞かせるぐらいしかできませんでした。

そして、家でも、

成績が悪かったので祖父から毎日怒られるし、  
祖母と母は、お互いの悪口を僕に愚痴るし、  
父は、自分に夢中になって家族のことなんて気にしないし、

どこにも居場所がありませんでした。

そんな感じだったので、  
高校は地元から離れている所を選びました。

新しい場所ですべてリセットしようと。

部活も小学校からずっと野球をやっていましたが、  
高校から陸上をやることにしました。

高校では、幸運にも優しい人たちに巡り会えました。

後ろから消しゴムのカスが飛んでこないし、  
話しかけても無視されません。笑

仲の良い友人もできました。

一番変わったのが呼び方です。

いままでは、「しょう」が3割  
ニックネームの「ハゲ」が7割でした。

なぜハゲ？と不思議に思っている人もいるかと思いますが、  
僕もなぜハゲと呼ばれていたのか分かりません。笑

本当にハゲていたわけでもありませんでしたし、  
なぜそう呼ばれているのか自分でも不思議でした。

しかし、高校では「しょうくん」って呼ばれるようになったのです。

うん、うん、苦しゅうない  
って心の中では思っていました。笑

それが、自分のほうが『上』と思えて承認欲求が満たされていました。

それほど、他人よりも優位になりたいと願っていたんだと思います。

それもそうです。

いままで、散々自分を肯定してくれる人がいなかったのも、僕にとっては、そんなんでも十分でした。

で、相変わらず、成績は悪いし、部活でも結果を残せる実力もありませんでしたが、それでも中学校よりは充実した日々を過ごせました。

でも、小さい頃からの影響で他人と比べる癖は、直らなかつたんです。

そのせいもあって、就職は警察官を選びます。

僕が通っていた高校では、  
8割が就職するような学校であり、  
僕も就職の道に進むことを選びました。

他の人は、地元の工場勤務や事務員などの  
業種を選ぶ人が多くいました。

しかし、僕は何者かになりかったので、  
皆が選ばない道に進むことにしました。

周りとは違う。

幼少期から抱えている自己承認欲求を満たすには  
他の人と違うことをして  
すごい、と言われたかったのです。

いま振り返るとそんな厨二病なことを考えていました。

その理由や部活の先輩がいるということで、  
千葉の警察に行くことにしたんです。

なんとなく都会に憧れていたし、  
でも、東京じゃ怖いから、  
ちょうど良い千葉に行こうって思いました。

何よりも家族から離れたかった。

って感じで、ここまでが、幼少期から高校までです。  
コンプレックスの塊でした。本当に。  
負けたくない。負けたくない。負けたくないって……  
やべーやつじゃんって思います。笑

だから、高校までは、

周りと比べたり  
愚痴っていたり  
見下したり  
他人のせいにしたり  
プライドが高いし  
口だけでだったし  
でも、勇気はなくて  
自分では何もできない

とサイテーなヤローで  
今こうして書いてて辛いっすもん。笑

人の悪口を言わなくて、いつも笑っていて、  
楽しそうにしている、運動も勉強もできて、  
周りには人が集まっている人を見ると  
憧れていました。

だから、こんな自分が恥ずかしくて、  
変わりたいって思っていたんです。

それが警察官になれば、  
こんな自分でも変われるのかなって  
期待をしていたのもあります。

なんとか運よく受かって、  
無事、警察官になるわけですが、

最初に、警察学校で警察官に必要な考えや知識などを  
詰め込んでいきます。

当時は、大卒が6ヶ月間、高卒が10ヶ月間でした。

その間は、携帯電話は没収されて髪型は坊主です。

好きに外出ができないし、  
髪型や服装は決められたものしか許されないし、  
行動も事前に決められているし、  
自由がありません。

ここって刑務所みたいじゃん、、、とっていました。

今まで好き勝手に生きてきた僕にとっては  
慣れるまで大変でした。

そして、僕の同期では中途採用が多く、

- ・ニートであったり
- ・配達業であったり
- ・ガソリンスタンドであったり
- ・車の整備士だったり
- ・営業だったり

と色々いました。

それを聞いて、  
もしかして、高卒で入った俺すげーんじゃね？

ってことで自分が誇らしくなります。

ここでも承認欲求を満たそうとしていたんです。

でも、実際警察学校での生活が始まると  
僕のポンコツ具合が出て  
教官からよく怒られていました。

そもそも、仕事というよりも覚えが悪かったんです。

教えてもらった1時間後には、  
あれなんだっけ？まーいいやー  
で失敗するし、

先のことを考えないで惰性で行動するから  
いつもギリギリになるし散々でした。

なので、他の同期から雑魚を見るような目で見られます。

正確には、そう見られているわけではないんですけど、  
家庭や中学生の頃のコンプレックスが今も引きずっていて

プライドも相変わらず高く、  
被害妄想を勝手に起こしていました。

東海林はいつも怒られているポンコツだ。と。

だから、自分の印象を勝手にポンコツの雑魚野郎だと思われているという意識になりました。

そんな状態なので、せっかく相手から話しかけてくれたのに「こいつ俺のことバカにしてる」と思って強気な態度で接してしまいます。

本当は仲良くしたいのに、です。

自信もないので、授業で皆の前で発表のときは、緊張しすぎて声が小さくなり、下や上を見たりして皆と目線を合わせることができません。

かといっても、そんな状態を打開するために、勉強したり  
相談したり  
練習したり  
するわけでもありません。

むしろ

環境のせいだ

人が悪い

違う場所なら俺はすごい

まだ本気を出していないからだ

なんでみんなは分かってくれないんだ

これを分かっている皆の方がポンコツだろ

ってことをずっと思っていました。

中学校のときのように拗らせるようになったのです。

でも、本当はそう思っている自分が  
間違っていることを知っていました。

自分と向き合うことが怖くて、  
今までの生き方を否定されるのが怖くて、  
目の前の問題から避けることしか  
自分を保てませんでした。

そんなこんなで、なんとか警察学校を卒業できて  
警察署へ異動になります。

そこでは、ひたすらロボットのように  
上司の指示に従って動きます。

そこには、自分の意思や意見はありません。

とにかく、上司から言われたことを素直に実行するだけです。

でも、それが妙に心地良かった。

責任がないし、上司の指示どおりに動けば怒られないし、何よりもなにも考えないのが楽だったんですね。

1つの駒のように、忠実に動けさえすればいい。

言われたことを言われたままに、動くだけで褒められるんです。

それを勘違いして、  
「やはり、俺はできる人間なんだ。  
ここでは俺を認めてくれる。」  
なんて思っていました。

しかし、後輩が入ってきたときは大変です。

今まで自分の頭で考えることをしてこなかったので、  
「先輩これどうやったらいいですか？」  
と質問されると、私は先輩のところについて

「先輩、これどうですか？」  
と聞きます。

つまり、  
後輩→おれ→先輩、先輩→おれ→後輩  
になるわけです。

責任を取りたくないなので、先輩に聞きます。

そもそも、自分で考えることができないので  
自分の力で答えを出せません。

後輩や部下は、予想以上に上の動きを見ています。

すべての行動や発言が参考になるからです。

だから、すぐに僕が仕事ができないことを見破られました。

次第に僕は、後輩から  
「何もできない先輩」  
というレッテルを貼られて、後輩が離れていったんです。

そんなので、彼女にも振られます。

その人とは、高校から付き合いって5年ほど経っていました。

就職してから、どんどん中学生の頃の自分が出てきて他人を見下して、いつしか彼女のことにも性格や行動に関して指摘することが増えました。

指摘する俺かっこいいだろー！！どや。って、勘違いにもほどがあります。

職場でも友人でも、本当の自分を認めてくれる人がいないので承認欲求を満たすために彼女に当たってしまいました。

そんなある日、突然、電話で別れを告げられます。

その彼女とは、

高校1年の時から好きになった人でした。

でも自己肯定感が低いから声を掛けられず、やっとの思いで高校2年のときに告白して、せっかく付き合えたのに1度別れてしまいました。

でも、忘れられなくて高校3年のときに、  
もう一度告白してやっと付き合えた人でした。

そこまでして好きだった彼女のことを  
自分の承認欲求を満たすために  
ひどいことをしてしまっていたのです。

最悪クソ野郎です。

誰もいなくなったと思いました。

家族にも、友人にも、職場にも  
相談できる人がいなかったんですから。

そんな、22歳の冬でした。

あー思い出したくねえ。。。。

本当にサイテーだった。

そんな時に、自己研鑽の本に出会います。

- ・自分を信じろ
- ・願えば叶う

・感謝の気持ちを忘れるな

そんな言葉が心地よかったので、  
どんどん本を読み始めました。

本読んでいる俺、意識高いだろ！って、  
優越感に浸りました。

そんな状態なので、マルチにハマってしまいました。

夜に居酒屋で飲んでいたら、マルチに勧誘されて  
1ヶ月だけグループに入りました。

周りの人とは違うことをやってみたかったんだと思います。

といっても、僕はただ話を聞くだけでした。

でも、話を聞いていくうちに「なんかやばくね？」と  
察知して抜けることができました。

気づけてよかったです。

そこから、  
世の中甘くはねえー  
って感じて、仕事を頑張ることになります。

2日連続で徹夜することもよくあるし、  
泊まり込みなんてザラでした。

勉強もたくさんしました。

でも、それが気持ちよかったです。

何かに真剣に取り組む充実感を感じることができたから。

俺はまだまだいける——！！  
って自分に喝を入れて進みました。

すると、知識が付き、思考が断然変わってくるのです。

思考が上がると、今まで見えてこなかったことが見えてきます。

例えば、饒舌だが能力がない人を見破ることができます。

僕が20歳の時に先輩と飲んでいるときでした。

その先輩は飲みに行く決めて説教してきます。

先輩:「おい、東海林。なんでお前はそんな仕事ができないんだ」

俺:「すみません！」

先輩:「俺がお前と同じ年の頃は、もっと頑張っていたぞ」

俺:「すみません！」

先輩:「もっと積極的に仕事に取り組め。俺が若い時は、ガンガン仕事していたぞ。」

俺:「すみません！」

先輩:「だからな、お前。俺が20歳の頃なんて～」

というものだったので、当時の僕は  
この先輩かけー！きっと仕事バリバリできんだろうな～  
って思っていたんです。

でも、その先輩は何年も同じポジションで、  
上にあがっていないことに気づきました。

しかも、一緒に仕事をすると、  
あれ？なんかおかしいな？  
となる。

つまり、自分のレベルが上がると  
その人の力量が把握できるのです。

饒舌な人が本当にたくさんいました。

逆に、僕自身も一時期、  
上司にコネコネしていた時期があります。

しかし、何度も痛い想いをして、  
やっと実力が無ければただ利用されているだけ  
ということに気づきました。

ここから、  
本物の実力を付けなきゃダメだな  
って思想に変わったんです。

騙されたくなかったら、  
知識を蓄えて実力をつける  
これしかありません。

そこから、うおおおーやるしかねえええーってなって、  
さらに燃えました。

そして、1つ1つ達成していくと自信が手に入るんですね。

え？俺ってもしかして、これ達成したの？  
俺ってすごいじゃん！！  
って、自己欲求が満たされていったんです。

1つの成功体験が、自分を自信に変えていきます。

なにか1つ小さなことでも成功体験を持つというのは  
めっちゃくちゃ大事ななと思いました。

「行動した」だけでも成功です。

そして、何でも褒める。

結果がうまくいなくても、

おれすごいじゃん！  
こんなこと前まではできなかったじゃん。  
レベルが上がったな。おれ！

って感じで自分を褒めることにしました。

結局、受け取り方次第だなーと。

例えば、  
好きな女の子に告白してフラレとしましょう。

こんな風にネガティブなことでも  
・フラれたのが最悪  
・告白できたんだから良かったー  
で、得られるものが変わってきます。

この考えに至ったわけは、思考が変わったからです。

マザーテレサの言葉で

思考に気をつけなさい、それは、いつか言葉になるから。  
言葉に気をつけなさい、それは、いつか行動になるから。  
行動に気をつけなさい、それは、いつか習慣になるから。  
習慣に気をつけなさい、それは、いつか性格になるから。  
性格に気をつけなさい、それは、いつか運命になるから。

という言葉があるように、  
思考を変えれば運命が変わってくるのです。

それに、どうせなら  
良い方向に決めつけていった方がいいなー

と僕自身が思ったのもあります。

そんな感じで、思考を変えていき、  
どんどん行動ができるようになり、  
今までの負のコンプレックスを  
克服できるまでになったんです。

そこからは、

当時最年少で本部に行って、  
昇任を平均30歳のところ24歳で達成できました。

これも、思考が変わったからだと思います。

そして、25歳になった僕は、  
人生を変える出来事と遭遇するのです。

当時の僕は、高速道路での勤務を命じられました。

そこに勤務になって最初に驚いたのが、  
高級車がバンバン走っていました。

・ポルシェ

- ・ベンツ
- ・BMW
- ・テスラ.....

アクアラインって高級車多すぎだろ。  
俺の年収何年分で買えるんだろ。  
どんな人が乗っているのかな。  
やっぱおじいちゃん？  
てか、平日なのになんでこんなに高級車が多いの??

みたいなことを思っていたのです。

僕は、ここでスピード違反や携帯電話などの取締りと  
交通事故の対応といった仕事を任されました。

なので、スピード違反や交通事故の対応で  
高級車に乗っている人と関わる機会があるのですが、

どんな人が乗っているのかな？と思っていると  
ほとんどが経営者や個人で稼いでいる人たち  
なわけです。

すげー、やっぱ経営者ってお金持ちなんだなー。  
ていうか、平日なのにゴルフ行けるんか。仕事は??  
一緒に乗っている女性めっちゃ美人。

こんな世界があるんだな。。。

8年間、同じ世界にいた僕にとっては刺激的でした。

今までここが正解だと思っていたからです。

8年間植え付けられた価値観も、  
教えられた人生設計も、  
どうやって生きていくのが正しいのかも  
すべてこの世界で教えられました。

だから、  
漠然とずっと同じ職業で定年まで働くなんだろうな一  
つて思っていたんです。

しかし、そんな考えが壊れました。

そこから、そういうお金持ちの人と何回か話したり、  
関わったりしてその世界に興味を抱くことになるのです。

暇さえあればスマホで「経営者」と検索していました。

起業。かっけー。  
収入、6億!?  
なんだ、この金額!!  
意味が分からない。  
どうせ選ばれたエリートなんだろうな。  
人脈があって、人望もあって。

、、、いや、こんなこと許せない。  
なんでこの人ばかり良い思いをしているんだ。  
きっと裏では悪いことをしているに違いない。  
そうだ。きっとそう。  
でなければ、こんなに稼げて、  
良い生活をしているわけがない。  
こんなに楽しい人生を送っているのも嘘だ。

自分とはまったく違う世界の人たちに  
嫉妬して、妬み、自分の人生を笑われているようでした。

でも、自分の力で生きている人たちが  
素直にカッコ良かったです。

おれには何も無い。  
もし、ここを辞めたらどうなるのだろう。

そんな気持ちになり、  
興味本位で転職サイトで調べてみると、  
転職可能な仕事「0」

絶望しました。

おれは一生ここで組織に従うロボットになるのか？  
捨てられたら、おれはどうなってしまうんだ？  
これまでの8年間はなんだったんだ。

ずっと、そのことばかりを考えていました。

そして、次第に気持ちが変わってきます。

やってみたい。  
俺も自分の力で生きてみたい。  
まだ、俺が知らない世界がたくさんあるはずだ。  
いま、俺は26歳。  
結婚も、マイホームも、借金もない。  
いましかない。  
今逃したら、チャンスがない。

そんな気持ちになり、勢いで公務員を辞めました。

そこから僕の人生は激変することになります。

価値観が崩壊したのです。

自分が信じていた常識って、  
意味がなかったんだなと気づきました。

正直って楽しいです。

色んな世界や景色を見て、刺激を受けまくりなんですね。

それはなぜかというと、  
今までは良いか悪いかの  
2極というモノクロの世界で生きてきました。

しかし、いまは様々な生き方があるという  
カラフルな世界を味わっています。

そして、何より自分のスキルに価値を感じて、  
お金を出してくれるということに自信になりました。

自分の力で前に歩んでいるって実感しています。

そして、これからも日々学んで、勉強して、  
自分の力がどこまで通用するのかを試して、  
見たことのない世界を味わいたいと思っております。

